

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公開番号】特開2006-225668(P2006-225668A)
 【公開日】平成18年8月31日(2006.8.31)
 【年通号数】公開・登録公報2006-034
 【出願番号】特願2006-81754(P2006-81754)
 【国際特許分類】

C 0 8 J 3/20 (2006.01)
 C 0 8 L 101/00 (2006.01)
 C 0 8 K 9/12 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 3/20 C E Z A
 C 0 8 L 101/00
 C 0 8 K 9/12

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年4月23日(2010.4.23)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 5】

本発明のさらなる観点によると、表面官能基を有する樹枝状ポリマーと1つ又は複数の反応物とを接触させ、1つ又は複数の反応物を樹枝状ポリマーの外部表面官能基と非共有結合的に相互作用させて樹枝状ポリマーの外部表面官能基に非共有結合的に接合させることによって、概していかなる世代の樹枝状ポリマーに対しても少なくとも1種以上の反応物の各々の1つ以上の分子を局在させる方法が提供される。1つ又は複数の反応物と樹枝状ポリマーの外部表面官能基の間の非共有結合的接合又は結合には、イオン結合、水素結合、ファンデルワールス結合、ロンドン分散相互作用、ドナー-アクセプター結合、配位結合等が包含される。局在化した1つ又は複数の無機反応物は続いて2つ以上の反応物の生成物又は単一反応物の生成物、例えば分解生成物であることができる反応生成物に変換される。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 2 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 2 9】

30分間の「静止期間」後に、15mlねじ蓋式試験管内で、測定した量の第2の反応物溶液を上記溶液と混合した。第1の反応物が平衡状態に達するようにこの時間をとった。

前記次工程において、バイアルに当量の第2の反応物を加えて反応物#1と反応させた(シュウ酸溶液を(a), (b), (c)に使用し、Ca²⁺溶液を(d)に使用した。)